

## 「当たり前」を見直すために 知っておいてほしいキーワード.....

1

### こ て い て き せ い べ つ や く わ り ぶ ん た ん い し き 【固定的性別役割分担意識】

役割は個人の能力や個性によって決めたい  
快適に、良い結果をもたらす選択を

平成 28 年熊本地震。避難所で過ごした人の中には、「女性だから炊き出し係」「運営責任は男性に負担が偏った」などの経験があったのではないのでしょうか。また、共働き家庭で誰が子どもを見るのかと迫られた際、男性（父親）は休むに休めず、多くは女性（母親）が仕事を休むことになったとも聞きました。

コロナ禍の中でも学校の休校時に同様なことが起きました。テレワークによって家族全員が平日も一緒にいる時間が増える中、妻（母親）だけが仕事プラス昼食づくり、子どもの世話を担うことになったと訴える声も上がりました。

「男は仕事、女は家庭」「主要な業務は男性、女性は補助的業務」などのように、性別によって役割を固定的

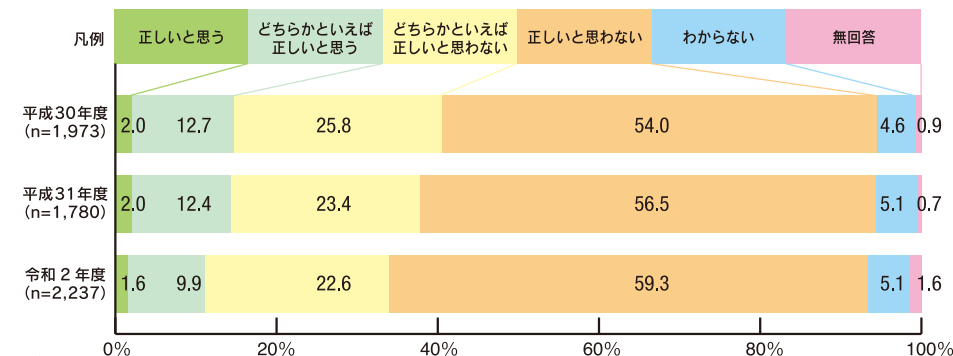
に分ける考え方を「固定的性別役割分担意識」といいます。

これには、社会制度や風習、経験などに基づいて形作られた性差＝ジェンダーの概念が影響しています。「女（男）は、こうあるもの」という思い込みは、時代や社会の状況によって変化しそうなもののなのに、なかなか変わらず固定化し、それが「当たり前」と疑わなくなってしまう場合も見られます。

しかし、どんなことでも、得意だったり、好きだったり、意欲がある人がすれば、よりうまくいくはずです。性別で役割を決めつける必要はありません。個人の能力や個性による特性を大切にすれば、多くの人がかつ快適に過ごせ、かつ良い結果がもたらされるのではないのでしょうか。

### ●「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである？」

熊本市民の性別による固定的役割分担意識に対する意見（全体／経年比較）



固定的性別役割分担意識を  
「正しいと思わない」市民が  
増えています

令和2年度熊本市第7次総合計画  
市民アンケート調査報告書から

こんな場面に思い当たることは  
ありませんか？

熊本市男女共同参画センターはあもにい発行  
「はあもにい通信」103号「男と女の△劇場」  
（画/ブンノ絵巳）から

